

この紙のゴール：場面に合う助動詞を選び、判断の強さと時を書き分けられる / 語群なし。自分の力で形を思い出して書きます。

1 場面に合うほうを○でかこもう。

知識・技能

各3点

(1) テスト前夜、遅くまで勉強したと聞いて	You (can / must) be sleepy.
(2) 新入生に部活の決まりを伝えて	We (have to / must not) bring our own water bottles.
(3) 電話に出ない友だちについて、理由ははっきりしないが	He (may / must) still be on the train.
(4) 終バスに乗りおくれた昨日の話をして	I (must / had to) walk home last night.

2 対話を通じるように () に英語を書こう。

知識・技能

各2点

A: Ken is late. He () have missed the bus.
B: Or he () be walking. It's a nice day today.
A: I hope so. It () be anything serious, right?
B: Don't worry. Look, here he comes.

3 自分のことを書こう。

思考・判断・表現

2点

今ごろ家族かペットが何をしているか推理して、英語I文で書こう (must か may を使う)。

4 同じ「すべき」でも、言われた人の受け取り方は変わります。

思考・判断・表現

各2点

試合に負けてくやしがっている友だちに声をかけます。どちらも正しい英文です。
A You should practice more.
B You should have practiced more.

① 「もう終わったことを持ち出して責められた」と受け取られるのはどちらですか。記号で答えよう。

② なぜそう受け取られるのですか。理由を書こう。

解答

1		2	
(1)	must	(1)	must
(2)	have to	(2)	may
(3)	may	(3)	can't
(4)	had to		

3（解答例） My brother must be practicing the guitar now.

4
 ①は正答が1つ。②は一例で、趣旨が合っていれば表現は問いません

①	B	Bは「実際には練習しなかった」ことを前提にしている。
②	「should have + 過去分詞は、実際にはそうしなかったことを表すから。」（一例）	Aはこれからの助言で、まだ練習する機会がある。Bは過去にさかのぼって「しなかった」と指摘するので、非難に響く。自分に向ければ後悔になる—この含みが分かっているれば、この単元の芯をつかんでいる。

採点のめやす

- ・大問1の正解例は(1)must・(2)have to・(3)may・(4)had to—4問を **must** ひとつでは書けません。「助動詞の単元だから must」と当てにいった答えは(3)(4)が落ちます（(2)の must は正解＝下の発展版の項を参照）。返却時にここを1分取り上げてください。
- ・大問1(4)は**どの帯にも残します**—この小テストでただ1つ「must では書けない」問題です（**must に過去形はありません**）。ここを落とした答えは、助動詞を時制の中でとらえる手順がまだ入っていません。
- ・大問1(3)は「電車に乗っているにちがいない」と考えて must と書いた答えが出ます。場面が「理由をはっきりしない」と言っているので、断定の must は文脈と食いちがいます。might も could も正解にしてください。
- ・大問2の語群は基礎版だけにあり、3語とも並びを空所の順とわざとずらしてあります（順番で当てられないように）。(2)は might、(3)は cannot と書いた答案も正解です。標準版・発展版は語群なしの記入式で、(1)に might have missed と書いた答案は「弱い推量」として認めてかまいません。
- ・大問3は推量の助動詞が1つ入っていて、だれの何を推理しているかが読み取れれば内容は問いません。発展版は2文で1つの解答です—2文目は I can hear the guitar from his room. のように、助動詞がなくてもかまいません。
- ・大問4は暗記では答えられない問いです。AもBも正しい英文なので、形だけを見ても選べません。②は「実際にはしなかったことを指している／もう取り返せないことを持ち出している」の趣旨が書けていれば表現は問いません。
- ・帯ごとの扱い：学び直し帯は見取り図が must の2行で、弱い推量も過去の形も範囲外なので、大問1(3)と大問2(2)(3)と大問4を外して13点満点で扱ってください。外した大問4は、返却時に「同じ should でも受け取り方が変わる」の予告として見せるだけにします。基礎版を配るときは、大問2の語群から can't と may を消し、must だけを残して印刷してください。大問3も must だけで書かせます。大問2(1)は空所に入るのが must の1語だけなので、この帯でも解けます—have missed は読ませるだけにしてください。この帯の思考・判断・表現は大問3の2点だけになるので、表現ワーク基礎版の「型で書く」で見取ってください。
- ・基礎固め帯は過去の推量と後悔が範囲外（見取り図が「過去のことは出しません」と宣言）なので、大問4を外して20点満点です。実力帯・入試帯は24点満点で扱えます。
- ・発展版は大問1が記入式です。(2)に must と書いた答案は**正解**です—決まりは must でも言えます（have to を選べていれば、外の事情を表す語との使い分けが見えています）。(1)に has to と書いた答案は、話し言葉では耳にする形ですが、この小テストでは推量＝must を正解とし、理由を1行添えて返してください。(4)に must と書いた答案には「must に過去形はない」を添えます。
- ・大問4を加えて24点構成です。10分で最後まで届かないクラスは、大問3を宿題に回すか、大問4だけを次の時間の導入に使ってください。

